

子供たちに伝えたい日本のよさ

ノーベル賞受賞者
大村 智（おおむら さとし）さんに
東京都栄誉賞を贈呈！

今年のノーベル生理学・医学賞に、東京都民である北里大学特別栄誉教授の大村 智さんが選ばれました。授賞理由は「寄生虫による感染症に対する新しい治療法の発見」です。この発見により、アフリカや中南米における感染症の治療薬が開発され、多くの命が救われました。

受賞後の記者会見で、大村さんは「人のために少しでも何か役に立つことはないかと考えてきたことが今回の受賞につながったと思う。」と話していました。

東京都は、ノーベル賞受賞の功績をたたえ、大村さんに東京都栄誉賞を贈ることとしました。

大村さんは昭和33年から5年間、都立墨田工業高等学校の教員として物理や化学を教えていました。

東京都栄誉賞

特に顕著な業績により、広く都民に敬愛され、社会に明るい夢と希望と活力を与え、東京都の名を高めた方に対して、その栄誉を称えることを目的として平成16年に制定されました。

これまでに都内在住・出身のオリンピック・パラリンピックの金メダリストやサッカー日本女子代表選手など、21人が受賞しています。スポーツ選手以外の受賞者は、大村さんが初めてです。

今月のテーマ —アフリカの食糧問題に挑む日本人—

～ネリカ[※]の開発～

アフリカ最大の課題である貧困問題を解決するために、稲作の普及が考えられています。

米というとアジアの主食という印象がありますが、アフリカでも、コートジボワールなど米を主食とする国が数多くあります。

しかし、アフリカ米の生産量は少ないため、大部分を輸入に頼っていました。そこで、日本などの支援により、従来のアフリカ米の約2～3倍の収穫量がある米の新品種、ネリカが開発されました。



写真提供：篠田有史/JICA

【日本人の指導によるネリカの普及】

このネリカの普及に大きな貢献をしているのが、日本から現地に派遣されている JICA (独立行政法人国際協力機構) の専門家です。



写真提供：篠田有史/JICA

その一人が、坪井 達史 (つばい たつし) さんです。坪井さんが活動していたウガンダでのネリカの耕作面積は、平成 26 年 7 月現在、約 70,000 ヘクタールです。坪井さんが赴任した平成 16 年当時の約 8,000 ヘクタールと比べると約 9 倍に増えています。

当初は、稲を雑草と間違える人もいたことから、坪井さんは、稲作技術の初歩から脱穀・精米の技術まで、丁寧に指導しました。そして、坪井さんは「ミスター・ネリカ」と呼ばれ、現地の人から親しまれるようになりました。

～世界から尊敬される日本人～

ネリカの普及によって、農業だけでなく、精米、流通など、関連産業での雇用も生まれるようにもなりました。

坪井さんは、長年の活動と貢献を評価され、平成 21 年にはニューズウィーク誌の「世界が尊敬する日本人 100 人」にも選ばれました。

※ネリカ……「New Rice for Africa (アフリカのための新しい米)」という意味を含め、NERICA と名付けられた。日本政府や様々な国際機関等の支援により西アフリカ稲開発協会が開発した。

JICA ホームページの記事 (http://www.jica.go.jp/topics/news/2012/20130315_01.html) を基に東京都教育委員会で作成

日本の伝統・文化紹介

【大相撲】

★大相撲の歴史★

大相撲の歴史は古く、「古事記」や「日本書紀」の中で紹介されています。また、埴輪（はにわ）や土器にも力士の姿が見られます。

江戸時代になると、寺社の建立や修復に必要な寄付を集めるために庶民的な相撲が行われるようになりました。その後、現在のような相撲興行が行われるようになり、江戸時代の庶民の大きな娯楽となりました。

現在では、世界に向けて衛星中継も行われています。相撲は国内で楽しめるだけでなく、諸外国でも人気のある日本の国技となっています。



★現代生活に生きる相撲用語★

【満員御礼】

大相撲の本場所で、客席が満員になったことを表す言葉です。

そのほかに… 様々なイベントやスポーツの会場、飲食店などがお客さんで一杯になったときに使われることがあります。

【番付】

大相撲の本場所で、力士の順位を示した表のことです。

そのほかに… 「〇〇番付」など、様々な順位を表す際に使われることがあります。

特色ある取組

【都立大江戸高等学校】

学校設定科目「伝統文化入門」

-江戸押絵羽子板の制作-



学校設定科目「伝統文化入門」で押絵羽子板などを専門家から学び、制作しています。

制作活動を行う際には、当該作品の背景にある江戸の文化や歴史についての理解を深めさせることで、生徒の学習意欲や関心を高めています。

江戸押絵羽子板は東京都指定の伝統工芸品の一つです。綿を布でくるみ、厚みをもたせた部品を作り、それらを組み合わせて立体的な絵をつくる「押絵」という、江戸時代から伝わる伝統的な技術が活かされた作品です。

伝統・文化に関するイベント等

★都立中央図書館

○ ミニ展示—2020年へ向けての応援シリーズ

「ボスニア・ヘルツェゴビナ」

☆ 平成27年12月2日(水)まで

☆ 3階人文科学系資料・閲覧室入口

都立中央図書館から半径800m圏内に駐日大使館・領事館がある24か国を、図書館所蔵資料を通じて順番に御紹介しています。

第2回目はアルファベットの“B”、ボスニア・ヘルツェゴビナ(Bosnia and Herzegovina)です。歴史や観光、文化のほか、スポーツや映画などで日本でも高く評価されている、ボスニア・ヘルツェゴビナ出身の4人の著名人に関する資料を展示しています。



○ 美術情報コーナー棚展示「少女マンガを語る本たち」

☆ 11月6日(金)から12月2日(水)まで

☆ 3階人文科学系資料・閲覧室

文京区の弥生美術館で、展覧会「陸奥 A 子(むつ えいこ)×少女ふろく展~DOKIDOKI『りぼん』おとめチック♥ワールド!~」が開催されています(12月25日(金)まで)。

この展示会に関連して、都立中央図書館で所蔵している1970-80年代を中心とした少女マンガについての評論本、エッセイ、展覧会図録などの資料を展示します。

多様な視点をヒントに、少女マンガの扉を開いてみませんか。

★都立多摩図書館

「ノーベル賞」関連図書を紹介

都立多摩図書館では、中高生の学習等に役立つ本をそろえています。今月のテーマに関連する本をピックアップしました。

『大村智 2億人を病魔から守った化学者』馬場錬成著(中央公論新社 2012)

都立図書館請求記号: 289.1/才 2453/601

2004年、大村さんはアフリカのガーナを訪れました。集落の教室で、通訳が「この先生はメクチザンを作った先生です」というと、子供たちは叫び声をあげました。寄生虫による感染症が広がっていたこの集落の子供たちは、薬のおかげで元気な姿でいるのです。

本書はノーベル医学生理学賞を受賞した、大村さんの伝記です。高校生の皆さんにおすすめします。

学校では、「朝礼の講話」や「関連する授業や道徳の授業の導入での話題提供やまとめの説話」、「学校だよりや学級だよりのコラム」、「学年集会や学校行事等での講話」等、様々な教育活動で活用いただくことができます。

※本資料に対する御意見・御感想や、本資料の活用実践等がありましたら、以下担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきたいと考えております。

【担当】

東京都教育庁指導部指導企画課

03-5320-6869